

# 対談「本で人とまちをつなぐ」

## 山崎範子 vs. 南陀楼綾繁

高齢化していくと親の介護、実家の空き家化、地域とのつながりなど、第二の人生を考える時期にさしかかっている人もいます。

地方の衰退、一極集中はますます進行しているように見えます。一方、地域には地道にネットワークをつくり、地域を元気にしていく取り組みもあります。地域雑誌「谷中・根津・千駄木」が地域のつながりをつくったことで各地に地域雑誌が生まれました。また書店と読者をつなぐ活動や一箱古本市でまちと人をつなぐなど、新しいムーブメントも地域で進んでいます。日々変化する東京の都会にしていると見えない、そんな本でまち、人をつなぐ実践者に、大いに語り合ってもらいます。

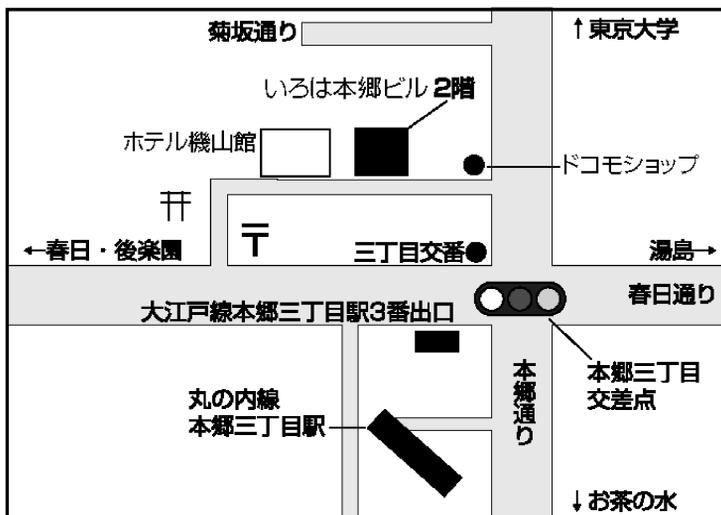
会場には一箱古本市の見本として南陀楼さんが一箱を用意していただきますので、実際にその楽しさを体験してみてください。

日時 2019年3月12日(火)

午後7時～9時

会場 出版労連会議室 A、B  
東京都文京区本郷 4-37-18  
いろは本郷ビル2階  
(右図参照)

会費 出版労連組合員 無料  
その他 500円



### 対談者

#### 山崎範子 (やまさき・のりこ) さん

1957年埼玉県川口市生まれ。現在、台東区谷中在住。1984年に森まゆみ、仰木ひろみと季刊誌「地域雑誌 谷中根津千駄木」創刊。翌年、(有)谷根千工房を設立。足掛け26年発行し、2009年8月の94号で終刊。雑誌の愛称がいつの間にか町の呼ぶ普通名詞となった。終刊後はこれまでの資料を谷根千記憶の蔵に移し、町のアーカイブづくりと大正期の蔵をまちの空間としての利用を進めている。雑誌づくりと並行して、日本最古のパイプオルガンの修復保存、赤レンガの東京駅の保存、不忍池の地下駐車場建設反対、日暮里富士見坂の眺望保全等の活動などに参加。現在も仕事の傍ら、町を記録した映像の発掘や上映、旧安田楠雄邸、島蘭家住宅の保存活用、運営に参加。現在は、日本で初めて洋式リボンを織ったのこぎり屋根工場の部材の一部と資料を保管し、調査を進めている。2018年4月より大正大学出版会発行の『地域人』編集部スタッフとなる。

#### 南陀楼綾繁 (なんだろう・あやしげ) さん

1967年、島根県出雲市生まれ。ライター・編集者。出版、古本、ミニコミ、図書館など本に関することならなんでも追いかける。2005年から谷中・根津・千駄木で活動している「不忍ブックストリート」の代表として、各地のブックイベントに関わる。「一箱本送り隊」呼びかけ人として、石巻市で本のコミュニティ・スペース「石巻まちの本棚」の運営にも携わる。著書『一箱古本市の歩きかた』(光文社新書)、『谷根千ちいさなお店散歩』(WAVE出版)、『小説検定』(新潮文庫)、『ほんほん本の旅あるき』(産業編集センター)、『町を歩いて本のなかへ』(原書房)、『編む人 ちいさな本から生まれたもの』(ビレッジプレス)、『本好き女子のお悩み相談室』(ちくま文庫)、『蒐める人 情熱と執着のゆくえ』(皓星社)ほか。『ヒトハコ』(書肆ヒトハコ)編集発行人。

#### 問い合わせ・申し込み

出版ネッツ関東支部 ハイカイ倶楽部  
出版ネッツ関東支部 読書サロン

武藤久登 muto\_hisato@yahoo.co.jp  
児玉勲 gbb00600@nifty.com/echoes130@gmail.com